

## 口から見えてくる健康格差～職域での重要性

加藤 元

日本アイ・ビー・エム健康保険組合 予防歯科

所得や学歴、職業などの社会経済状況は、自覚的健康度、虚血性心疾患や糖尿病といった慢性疾患の罹患率、そして死亡率に健康の格差を生んでいることがわかってきている。近年、雇用形態の多様化が進み、契約、派遣、パートなどの非正規社員が増加し、それに伴う健康格差の拡大が懸念されている。また、家庭の貧困が子供の健康と成人後の健康に影響を及ぼす可能性が示唆されており、少子超高齢化が進む社会において、健康格差が医療費の増大といった形で将来大きな問題となっていく可能性が非常に高い。健康格差は「一部の貧困層」と「その他」といった2極化ではなく、すべての人々に影響する社会的勾配であり、中小規模の事業所のみならず規模の大きい企業の中でさえ、それは存在する。この是正には、まずは健康の格差が存在することに気づくことが重要であるが、医科では健康の格差が目で見える形で現れない疾患が多く、健康格差に着目し積極的に取り組んでいるケースが多いとは言い難いのが現状であろう。

一方、歯科では、むし歯や歯周病、歯の欠損などを目で見ることができ、吐く息を鼻で嗅ぎ、また歯の欠損による発音障害を耳で聞きとることができる。相田らのシステマティックレビューとメタ解析のレビューから、所得や教育歴が高い者ほど、残存している歯の数が多いこと、歯を欠損していても義歯を着用している者が多いこと、地域の所得が高いほど3歳児のう蝕は少ないことがわかっている。職種によっても、う蝕や歯周病、歯の喪失に健康格差が認められている。国民皆保険制度のもと平等に治療を受けることが保証されているにも関わらず、歯科でも健康格差があるのは、治療に行く行かないといった差だけではなく、歯科疾患の発生の差によるところが大きい。歯の喪失につながるう蝕や歯周病は、それらの原因菌を含む歯垢の量を適切な歯科保健行動（ブラッシングや歯間清掃、洗口など）によりコントロールできるかどうかで発生が左右されるが、それに加えて食事の内容や摂取タイミング、喫

煙といった生活習慣も、その発生や重篤化に深く関与している。このように歯や口は保健行動や生活習慣を反映する鏡でもあり、一見するとわかりづらい健康の格差を明確にとらえやすい部分でもある。

近年、歯と口の健康状態は、体全身の健康状態、特に糖尿病と深く関連していることが明らかとなってきた。糖尿病になると、唾液中の糖分の増加や口腔乾燥により歯垢が付着しやすくなることに加え、歯肉の毛細血管の血流低下、白血球の機能低下、歯周組織の修復力の低下等により歯周病が悪化しやすいことは以前より知られている。逆に、慢性炎症である歯周病の存在が、その免疫過程で発生するサイトカインにより既存の糖尿病を増悪化させることもわかってきた。さらに歯周病で歯を失い咀嚼障害を起こすと、穀類の摂取量が増え、野菜が減ることもわかっており、歯周病と咀嚼障害は糖尿病と負のスパイラルを形成している。全日本民医連の報告から2型糖尿病にかかっている若年者では合併症やコントロールの良否に社会経済状況が関与している可能性が高いこと、国民健康・栄養調査の結果から穀類摂取量と野菜類および肉類摂取量が所得により有意に差があることから鑑みると、歯と口と糖尿病、そして社会経済状況は相互に影響を及ぼしあっているといても過言ではない。

健康格差が進んでいく可能性がある状況の中、産業保健活動を展開していく上で必要なのは、働く人々の背景にある社会経済的側面を考慮すること、そして格差をその業種や業態、雇用の特性としてとらえて取り組んでいくことである。それには、健康診断や保健指導、健康情報の発信、啓発活動によってヘルスリテラシー・自己管理能力を身に着けさせるのみならず、本人が意識せずとも健康的に過ごせる環境作りや、社会経済状況とともに健康格差を左右する人々のつながり力（ソーシャルキャピタル）をも配慮した取り組みが必要で、より広い視点を持つことが私たち産業保健に携わる者に求められてきている。

## 座長略歴

小橋 元 (こばし げん)

1989年北海道大学医学部卒業。北大産婦人科入局の後、1994年北大公衆衛生学講座助手、2001年予防医学講座講師、2006年放射線医学総合研究所遺伝統計研究チームリーダー、研究倫理企画支援室長を経て、2015年より獨協医科大学医学部公衆衛生学講座教授。専門は周産期疫学、循環器疫学、放射線疫学、社会医学。資格は労働衛生コンサルタント、第2種放射線取扱主任者、日本産科婦人科学会専門医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医。

## 演者略歴

加藤 元 (かとう げん)

【学歴】

1986年 東京医科歯科大学歯学部卒業

1986年 同大学第一補綴学教室 専攻生

1991年 同大学医用器材研究所有機材料部門、専攻生として象牙質接着の研究に従事

【職歴】

1990年 日本アイ・ビー・エム(株)藤沢事業所健康開発支援センター歯科室

2003年 日本アイ・ビー・エム健康保険組合 予防歯科 現在に至る

2007年 東京医科歯科大学大学院健康推進歯学 非常勤講師

【資格】

歯学博士、歯科医師、労働衛生コンサルタント

【役職】

日本産業衛生学会 産業歯科保健部会 部会長